

[第 2 回富良野市障がい者計画策定市民委員会 議事録]

○西尾福祉課長の進行で開会

○鎌田保健福祉部長あいさつ

・今後の災害対応と障がい者差別解消法施行等の課題について、また、障がいのある方が地域で安心して生活できる体制について、この新たな計画策定での忌憚のないご意見と審議をお願いしたい。

○小玉委員長あいさつ

・第 1 回委員会後にアンケート調査を行っています。回収後の結果について、皆さんから意見を頂き、今後の計画策定について審議願いたい。

○議事進行 小玉委員長が議長となり議事進行

○議事

協議事項

(1) 富良野市障がい者計画のアンケート調査結果について説明 (多田係長)

- | | |
|---------------|----------|
| 1. アンケート調査の概要 | 資料 1 |
| 2. 調査結果 | 資料 2 - 1 |
| 3. 自由記載 | 資料 2 - 2 |

提案 1

・身体障害者協会及び障がい者福祉サービス等の情報及び案内についての現状について → 現在は障害者手帳交付、再交付時にしおりを配布し、サービス等の案内を行っている。身体障害者協会等団体の案内は行っていない。今後、団体の案内及び周知については検討を行う。

提案 2

・問 32. 障がい福祉サービスの利用について → 項目が多く今回は載せていないが、追って最終のアンケート集計結果で掲載を行う。

提案 3

・回答率が半数、その内 2/3 が 65 歳以上、身体障がい者が 870 名中 606 名、三障がいと一緒にいるこのアンケート結果では、障がい者計画に反映する有効性、妥当性がないのではないか、また、身体障がい者の意見が強く反映されているのではないか → アンケートの集計ソフトが障がい者別のクロス集計もできるため、設問によって障がい者別の集計が可能、必要に応じて対応する。

提案 4

・問 41、問 42、問 43 の複数回答の数について → 複数回答により、すべての項目に○をつける事が可能なため回答数が多い。

委員からの感想、気になる点について

- ・問 19 について、「今のまま施設や病院で生活したい」が 65% と多く、地域生活に戻るためのサービス等や居場所や家庭がなく、もうこれで良い、地域に戻り生活する事は出来ないと本人は感じているのだろう。
- ・自由記載について、特定疾患（難病）の方がこのアンケート自体が心外だと感じている。特定疾患（難病）の方には何らかの配慮が必要。また、今まで特定疾病（難病）の方の意見を聞く機会がなく、今回初めて聞く事ができた。
- ・現在の障がい者施策に於いては「誰もが一緒に生活できる共生社会を」という理念に変わっており、障がい者だけでなく誰もが同じように生活し共生するという障がい者計画の理念が上手く市民（特定疾病の方を含む）に伝わる事が重要だと思う。
- ・アンケートの自由記載によると相談したいと希望する方が多く、何処に相談して良いか分からないとある。障がい者の不安の解消のためには、気楽に相談できる常設の窓口の提供やその周知があった方が良いのではないだろうか。
- ・今回のアンケートでは、細かな声が拾えてないのではないかと。例えば申請主義により窓口まで申請したり、医療機関に受診したりという移動に困難がある方を、誰が福祉や医療につないでいくのかという細かな部分が出てこない。家族が障がいがある、あるいは高齢者だけの世帯や独居が増え、支援の必要な方がいきなり入院や孤独死という事になっていくのではないだろうか。今後に漠然とした不安がある。
- ・老々介護や認知症の免許証の返還によって通院の不安があり、そして 10 年後にはもっと高齢化率が上がっていくだろう。現状では地域での民生委員や社協が相談の窓口になっていて相談にのるケースが増えている。ひきこもりや認知症等での相談が表に出せずに、なかなか相談につながらないケースもある。
- ・富良野市が障がいの知識が低い、あるいは福祉に遅れがあると思われる事について、具体的には分からないがとても残念な事だと思う。

(2) 今後のスケジュール等について説明 (多田係長)

1. 障がい者計画の基本理念と施策体系について 資料 3
2. 今後のスケジュールについて

→ 基本施策の「4. 保健・医療の推進」「7. 権利擁護の推進」及び施策の展開の追加について了承

その他

- ・次回開催について
第 3 回委員会は、7 月下旬頃 16 時の開催日程を予定

閉会